黒(くろ)96をテーマに選んだ本

図書館報第96号ということで、今回のテーマは「黒(96)」。
図書館サポーターが独自の目線で選んだ
「黒(96)に関する本」をご紹介します!!

M.Iさんオススメ!

黒蜥蜴:戯曲

三島由紀夫 著

請求番号:912.6/M525
資料ID:00329237

この作品は、江戸川乱歩の黒蜥蜴を三島由紀夫が戯曲にしたものです。美しいものを愛し、コレクションとして楽しむ女賊・黒蜥蜴VSそんな彼女を追う名探偵・明智小五郎。宝石商令嬢とダイヤ「エジプトの石」の行方を巡って攻防を繰り広げる。騙し騙され、お互いを好敵手と認める壮大な知恵比べに引き込まれていく。また世の中の善悪ではなく、自らが求める美・生き方・欲求という人間的な行動も魅力。戯曲だけでなく漫画や、ドラマにもなっているのでそちらもオススメ。今回のテーマである「黒(96)」は書名の『黒』蜥蜴の本の色にもなっています。

足立 実さんオススメ!

魂の行方
(心霊探偵 八雲7)

神永学 著

請求番号:913.6/Kam
資料ID:80005203

「目の黒いうち」という言葉に表わされるように、一般的に日本人の眼は黒いです。けれども、八雲の左眼は違います。赤いです。また、その左眼は、死者の魂を映します。この特異な体質をもって事件を解決していく、それが八雲シリーズです。今回の舞台は長野県。神隠しの調査のために、鬼が棲むという伝説のある地へと向かいます。そこには八雲の存在に関わる、人間の魂がいました・・・。さて、黒い眼を持つ者と、ただ赤い眼を持つ人間とが出会うとき、どのような人生をつくるのでしょうか?黒の残虐さ、赤の愛を描いたシリーズ第7巻です。

M.Sさんオススメ!

私の死亡記事

文藝春秋 著

請求番号
:281.04/Bun
資料ID
:50022809

私が今回この本を選んだ理由は、内容がブラックジョークを含んでいると思ったからである。社会的地位のある人に死が訪れた時、生きている人には、どういう風に伝えられるのだろうか。この本では現代の小説家、芸術家、詩人、批評家などの102名によって、本人が望む死亡記事が綴られている。書かれている死に方は、病死、事故死、自殺、行方不明などさまざまに存在する。102名の著名人が望む死亡記事を読むことによって、皆さんの死のイメージが変わるかもしれない。また、死ぬまでの自分の人生の振り返り方のヒントになるかもしれない。是非、読んでみてはいかがだろうか。

阿部 絵美さんオススメ!

黒の文化史

ジョン・ハーヴェイ 著,
富岡由美 訳

請求番号:757.3/Har
資料ID:10045840

黒といえばどのようなイメージを思い浮かべますか。おそらく人によって色々なものが連想されると思います。それは、黒という1つの色においてもたくさんの意味や文化があることからきています。そして、それらは神話・古代から近現代と姿を変えていきました。どのように「黒」という存在は変わっていったのか、色という側面以外の要素を持つ黒について知ることができる一冊です。

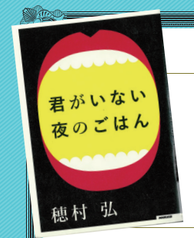
石倉 綜太郎さんオススメ!

孤狼の血

柚月裕子 著

請求番号:913.6/Yuz
資料ID:50084158

今回のテーマが「黒」だったので、表紙が黒いこの本を選びました。100回を超える警察表彰という輝かしい経歴を持ちながら、訓戒処分も現役ワーストという孤高のベテランマル暴刑事、大上。その大上の下に、新人刑事として配属されてきた日岡。物語はその日岡の目線で描かれ進行していきます。古き良き時代の刑事とヤクザの関係が痛快で、かなり面白かったです。プロローグとエピローグの構成だけでなく、終盤の「孤狼の血」の展開は驚きの連続でした。



ごまさんオススメ!

君がいない夜のごはん

穂村弘 著

請求番号:914.6/Hom
資料ID:50062207

表紙が黒くて、タイトルにも「夜」が含まれているし、なんか怖そうという安易な考えでこの本を選びました。しかし中身は全くそんなことはなく、食べ物についてひたすら作者があれやこれやと論じている短編集となっています。論じていると言っても作者の呟きを聞いているような感覚。共感できたり、クスっと笑えたり、知らない世界が広がったり、これを読めばあなたの普段の食事に新しい視点が見つかるかも。

W.Tさんオススメ!

図書館奇譚

村上春樹 著

請求番号:913.6/Mur
資料ID:50079580

装丁も真っ黒ですが、それだけでなく内容も一風変わったダークな絵本です。海外の画家が名乗りを上げて描いたという挿絵も、不思議な雰囲気を醸し出しています。絵本なので、気軽に読めると思います。ちょっと不気味で怪しげな村上春樹の世界観を覗いてみませんか。

ビブリオバトル

ビブリオバトルとは?
1. 発表者(バトラー)が他の人に勧めたい本を持って集まる。
2. 順番に1人5分間で本を紹介する。
3. 2〜3分のディスカッションタイム
4. 最後に「どの本が一番読みたくなったか」を観客が投票で決める。

第12回ビブリオバトルは
2017年6月16日(金)
12:50-14:20
D館2階ICカフェで
開催されました。

CHAMPION!!

第12回 ビブリオバトルチャンプ

経済学部4回生 佐藤 亮太さん

◆ ビブリオバトルに参加した感想

とても緊張してしまって本の魅力を十分に伝えられなかった気がしますが、結果として優勝できてよかったです。ありがとうございました。

◆ この本を読む人へのメッセージ

「論文」というものを難しく感じている方にぜひ読んで欲しいです。きっと気になるものが一つあると思うので、ぜひ手にとってみてください。

今回のビブリオバトルは、バトラーをはじめ、
図書館サポーター、観客のみなさまの協力により、無事行う事ができました。
参加してくださったみなさま、どうもありがとうございました!!